


生育状況に応じた「雑草防除」・「排水対策」・ 「適期追肥」等で、単収増を目指しましょう！

令和8年2月
東讃農業改良普及センター
東讃農業改良普及協議会

1. 中期雑草防除

例年、2月中旬を過ぎると気温が上昇し始めますので、今後一層雑草の生育が早まることが見込まれます。適期を逃さず、雑草防除を進めましょう。

薬剤	対象雑草名
ハーモニーDF	一年生広葉雑草及びスズメノテッポウ
エコパートフロアブル	一年生広葉雑草
バサグラン液剤	一年生雑草(イネ科を除く)
MCPソーダ塩	一年生及び多年生広葉雑草



スズメノテッポウにはハーモニーDF。(写真は4.5葉期)

ヤエムグラに対する効果が高い。2~6節期まで(写真は3節)

カラスノエンドウにはMCPソーダ塩の効果が高い。

各除草剤の詳細(使用時期/回数や10a当たり使用量など登録内容)を「栽培しおり」やラベルで必ずご確認ください。

- ※1 除草剤を散布後、再度除草剤を散布する時は、麦への影響を見ながら1週間以上間隔をおいて使用する。
- ※2 ハーモニーDFは、抵抗性があるスズメノテッポウには効果が劣り、2葉期程度までしか枯死しないことがあるので、必要に応じて展着剤を加用する。
- ※3 エコパートフロアブルは散布後、軽微な白斑・褐斑を生じることがあるが、その後の生育・収量に影響はない。
- ※4 バサグラン液剤は、**大麦では使用時期が「収穫90日前まで」**のため注意する。
- ※5 MCPソーダ塩は、**分けつ抑制作用があるため、茎数が十分確保されてから散布する。**

2. カモ食害対策

ため池に近い地域では、まだカモが飛来し、麦が食害を受けているほ場もあります。

3月上旬まではカモに注意し、被害が見られる場合は吹き流しの設置などの対策を行いましょう。



黒マルチを使った吹き流し
・2m程度と長い黒マルチやテープ等を付け、10a当たり10本程度を目安に設置する。



カモによる食害跡
・3月中旬まで被害されると大幅な穂数・収量の減少を招くことがある。

3. 排水対策の徹底

春先は雨量が増えるため、土壌が乾燥しているうちに土入れ等で排水溝を補修し、湿害を回避しましょう。



土入れによる排水溝の補修

- ・土入れは土壌が乾いた状態で、麦4葉期から茎立ち期(3月上旬頃)までに実施します。
- ・追肥後に行くと肥効が増し効果的です。倒伏防止や小さな雑草の除草にもなります。
- ・麦が小さい時に土をかけ過ぎると、分けつを抑えてしまうので注意しましょう。

4. 追肥

肥切れによる黄化や湿害による生育不良がみられる場合は、早めに追肥をしましょう。ただし、土壌の乾燥による肥切れ・黄化が疑われる場合は、降雨後に葉色が戻ることもあるため、降雨後の様子を見てから施肥量を調整するか、通常の施肥を行いましょう。

区分	時期と10a当たり施肥量 (窒素成分14%の速効性肥料の場合)	
	生育が順調な場合	黄化、肥切れ、湿害による生育不良が見られる場合
さぬきの夢 2009(小麦)	2月下旬~3月上旬 砂質田25kg(粘質田30kg)	2月中旬 砂質田30kg(粘質田35kg)
はるみずき(パン用小麦)	3月上旬 20kg(土壌区分:共通)	2月下旬 20kg(土壌区分:共通)
はるか二条(二条大麦)	2月中旬~2月下旬 25kg(土壌区分:共通)	確認次第施肥

小麦の肥切れ症状



※葉色が全体に薄く、葉先が黄化する。
※追肥後も葉色が戻らない場合は、酸性障害の可能性があるので、ご相談ください。